

学校評価結果報告

訓子府町立訓子府小学校

令和5年度前期の「学校評価アンケート」の集約結果を、以下にお知らせいたします。ご多用の中ご協力していただき、ありがとうございました。いただいたご意見を、今後の学校経営や教育活動に活かして参ります。

1 アンケート結果（回収率 保護者回収率 64.6%：児童100%：教職員：91.6%）

令和5年7月 アンケート結果		保護者	児童	教職員
1	学校に楽しく通っている、	3.5	3.2	3.4
2	居場所ある学級づくりに努めている。			3.4
3	地域に根付いた学習を進めている。	3.5	3.4	3.1
4	失敗をおそれずに新しいことに取り組んでいる。	2.9	3.1	3.2
5	課題に直面した時、自分の判断で行動することができる。	2.7	3.2	
6	自己決定の場を意図的に創出することができた。			3.2
7	粘り強く物事に取り組む態度や姿勢を身に付けている。	2.8	3.3	3.2
8	仲間と協力しながら、いろいろなことに取り組むことができる。		3.4	3.1
9	温かな言葉遣いをしている。	2.9	3.1	2.8
10	友だちと望ましい関係を築いている。	3.3	3.6	
11	友だちのよさや違いを大切にしている。		3.6	3.0
12	良さを認め励ます姿勢や態度で児童の指導に当たっている。			3.5
13	宿題や家庭学習の習慣が身に付いている。	3.0		
14	授業は楽しいと話している。	3.0		3.3
15	「子供が学ぶ授業」への転換を意識的に行った。			2.9
16	授業中に自分の考えを伝えることができる。		3.1	3.0
17	友だちとコミュニケーションをとりながら、勉強や生活をするすることができる。		3.5	3.0
18	タブレットを使った授業がわかりやすい。		3.6	2.6
19	授業中に自分から進んで問題や課題に取り組んでいる。		3.2	
20	学習の決まりを守って生活している。		3.3	2.9
21	進んで歩いて登校している。	2.2		2.3
22	日常的に体を動かして遊んでいる。	3.2		2.8
23	汗をかく体育の授業実践ができています。			2.9
24	望ましい食習慣を身に付けさせている。			3.1

学校評価は、概ねどの項目も一定の評価をいただきました。特に「学校に楽しく通っている。」（保護者：3.5）「地域に根付いた学習を進めている。」（保護者：3.5）「友だちと望ましい関係を築いている。」（保護者 3.3）などの項目については、多くの保護者や児童、教職員より評価されました。子供たちは、友だちや地域の方々との関わりの中で、よく学び、よく遊び、豊かな心を育てています。今後も、重点目標に掲げている「自ら学び、互

いに認め合う子供の育成」の実現に向けて、郷土愛に満ち、他者を尊重しながら自立（自律）する子供を育む教育活動に取り組んで参ります。

一方、「自分で判断して行動する力」（保護者：2.7）や「粘り強く取り組む姿勢」（保護者：2.8）「徒歩通学の奨励」（保護者：2.2）については、改善の余地があります。日々の授業において、自分の考えを発表する機会や対話を取り入れた学び合い、ICTの効果的な活用を推進していきます。また、徒歩通学も含めた運動の日常化や汗をかく体育の授業の実践を通して、健やかな体の育成に一体的に取り組んでいきます。過日、保健体育委員会や集会委員会を中心に、全校鬼ごっこ大会を企画運営しました。運動が苦手な子も楽しく取り組める内容が計画され、子供たちの創意工夫が光りました。「子供の良さを認め励ます姿勢や態度で児童の指導に当たっている」（教職員：3.5）という教職員の強みを生かし、温かな人間関係と「わかる」「できる」で楽しい授業づくりを目指していきます。

この他に、昨年度まで課題となっていた「宿題や家庭学習の習慣」（R4：2.7→R5：3.0）が改善傾向にあります。昨年度に引き続き「家庭学習チャレンジ週間」に取り組み、子供たちは興味関心や自分の課題に応じた家庭学習を全校に紹介しています。回を重ねるごとに創意工夫が見られ、感心します。今後も継続できるように、ご家庭におかれましても励ましや声かけをお願いいたします。

2 自由記述【端末の持ち帰り活用状況】※同内容を合わせています。

（保護者）

- ・問題なく活用している。（6名）
- ・楽しみながら、進んで取り組んでいた。（8名）
- ・タイピングの練習やキーボードに取り組んでいた。（6名）
- ・進んで学習に活用したり、指示された課題に取り組んだりしていた。（7名）
- ・プリントの宿題よりも、進んで多くの問題に取り組んでいた。（2名）
- ・宿題をやるときのみ使用していた。
- ・画面を逆にしてタブレットのようにすると使いやすく、腕も痛くないと話していた。
- ・ルールを守って取り組んでいた。
- ・中学生の兄に教えてもらいながら、問題なく進んでいた。
- ・低学年や中学年ではサポートが必要だった。
- ・タブレットを使った学習を楽しみにしている。
- ・学校を休んだ友だちと顔が合わせられるのはとても素晴らしい。授業を遅らせないためにも活用してほしい。
- ・端末を持っている家庭に、持ち帰る意味がない。URLなどを入力して学ぶ方が価値がある。
- ・「やりたいのに課題ができるようになってない」と残念がっていた。まだ本格的に開始していないのではないか。
- ・接続がうまくできた。（2名）
- ・学習画面になるまでに戸惑った。説明とは違う画面が何回か出た。
- ・使用しなかった。週末は試合などで利用できなかった。（6名）
- ・よくわからない。（4名）

- やったりやらなかったり。最近あまり持ち帰らない。
(児童)
- タブレットのブロックを少なくしてほしい。
- タブレットの機能をもっと良くしてほしい。
- タブレットを使った宿題や勉強をしたい。(3名)
- 平日の宿題をタブレットにしてほしい。
- タブレットを使うとき、高学年が低学年に分からない勉強を教える合同学習があるといいと思う。低学年は教えてもらったことを身に付け、高学年は教え方がうまくなる。

一人一台端末が導入され、学校では各授業やアンケート、仲良し会活動、週休日の家庭学習などの場面で活用してきました。現在は、児童の端末活用機会の拡充や家庭学習の一層の充実に向けて、日常的な持ち帰りを実施しています。

学校では、子供たちが鉛筆やノートと同じように、日常的に端末を使って学ぶ授業づくりに取り組んでいます。活用し続けることにより、子供たちのスキルが向上しています。また、端末の活用効果として、学習効率の向上や全員参加型の学習、意見交流の充実、学習への関心意欲の向上などが挙げられます。「タブレットを使った授業がわかりやすい。」(児童：3.6)と、子供たちにも大変好評です。今後も、学習の道具としてよりよく活用できるように、授業改善に取り組んで参ります。一方で、端末機器の丁寧な使い方が課題です。乱暴に扱うとキーボードのキートップが簡単に外れてしまいますので、ご家庭でも大切に使用するよう、注意させてください。

3 自由記述【訓小をさらに魅力ある学校にするためのご意見】

皆様よりいただいたご意見を紹介します。なお、主旨が簡潔に伝わるように表現を簡略化していますので、ご了承願います。また、個人に関わる内容については、個別に対応させていただきましたので、合わせてご承知おき願います。

【施設や設備について】

(保護者)

- 新校舎の設立。
- 近年暑いので、各教室にクーラーを設置してほしい。子供たちがかわいそう。
- 昨今温暖化の影響で、大人が子供の環境を整える必要がある。早期のエアコン設置を強く希望する。
- 教室の蛍光灯落下の破損に関わり、子供の安全が懸念される。教育委員会と学校が連携し、速やかな安全管理をお願いしたい。

(児童)

- 学校を新しくしてほしい。(2名)
- 学園みたいにしてほしい。
- 校舎を広くしてほしい。(2名)
- 音楽準備室の扉が硬いので、開け閉めしやすくしてほしい。
- 窓側にも天井扇がほしい。廊下の暖房を暖かくしてほしい。
- トイレをきれいにしてほしい。(8名)

- 遊具（ブランコ、ターザンロープ2個、地球儀、鉄棒、バッティングセンター、水遊び場など）が増えてほしい。（17名）
- ボールを増やしてほしい。（2名）

校舎内外の設備については、日常的に安全点検を行い、必要に応じて修繕に努めています。トイレの改修や遊具・エアコンの設置など、規模の大きい内容については、適時教育委員会と協議し対応してまいります。なお、各教室の照明については修繕と点検を終え、安心して学べる環境になっております。ご心配をおかけいたしました。また、今年は猛暑日が続いたため、各教室にスポットクーラーや扇風機を設置したり、エアコンのあるパソコン室や図書館を活用したりするなど、可能な限り暑さ対策に取り組んできました。子供たちの体調や暑さ指数をもとに、適切に教育活動を実施していきました。

【特色ある教育活動について】

（保護者）

- 税金の仕組みや思想、生き方、ローンとかお金の仕組み、自分の家の仕事、交通の事など、人生の役に立つ学習があるとよい。
- 訓子府町の農業や酪農の見学などがあるとよい。
- 地域に根差した活動が多いので、今後も続けてほしい。
- 居武士小学校との交流学习を増やしてほしい。
- コロナ禍明けで行事が復活しており、満足（感謝）している。

（児童）

- 全校のイベント（行事）を増やしてほしい。（2名）

訓子府町は、「農業」「地域や社会」「歴史や施設」「芸術」などの分野ごとに、ふるさと教育（くねっぷ学）を推進しています。福祉保健課と連携した認知症講座（6年）や北見地区保護司会と連携した薬物乱用防止教室（6年）を実施しました。今後は、google meet を活用したスマホ・ケータイ安全教室（5.6年）や津野町との交流学习（5年）を予定しています。コミュニティスクールコーディネーターと連携しながら、今後も子供たちに身に付けさせたい力に応じた学習になるよう改善していきます。

参観日や学校行事、PTA活動など、感染防止対策を行いつつ、人数制限を廃止して実施してきました。また、全校児童が会同した全校朝会や集会、社会科見学、仲良し会活動、居武士小学校との交流学习、訓子府中学校と連携した出前授業など、様々な学習を再開しています。これからも、地域とともにある学校を目指して、有意義な学習を実践してまいります。

【保護者との連携について】

（保護者）

- 保護者の思いを寄り添って聞いていただいている。困った時も相談しやすい。
- 子供から不満等はなく、楽しく過ごしやすい環境になっている。
- 地域や先生、保護者の方々が優しくとても助けられている。子供も学校や授業を楽しむにしており、このような環境が続いてほしい。

- ・進級に伴い宿題の量が増え、かなり負担になっている。勉強が得意な子もいれば、苦手な子もいる。
- ・生徒と保護者の心内を早く感じていただきたい。
- ・わくわく園のように、コドモンを導入してほしい。プリント類が減り、行事確認や欠席連絡もいつでもできてよい。
- ・何十年前の決まりや習慣を見直し、現代に沿った考えや取組で魅力を作るべき。
- ・インフルエンザの予防接種などが学校であるとよい。

(児童)

- ・言いたいことははっきり言ってほしい。何をどうしたいのか、クラスにどうなってほしいのかきちんと話してほしい。どう行動したらいいのかわからない。

学級懇談会や面談等において、子供たちの学習や生活の様子について定期的に交流していますが、適時連携し、早期に課題を解決することが大切です。校内においては、学年団のチームや生活部、特別支援教育コーディネーターを中心に、複数の視点で子供たちの様子を把握し、指導や支援に生かしています。また、休み時間には、支援員を含む全ての教職員による見守り活動をしています。気になる言動はその場で指導し、担任と連携しています。子供たちが学校生活を送る上で、困り感や悩み、不安に思うことがある場合は、早め早めに対応していきますので、些細なことでもご相談ください。

緊急連絡の手段として、町内小中学校で共通のメールシステムを使用しています。急な学習の変更や臨時休校、学校評価アンケート等でメールを配信しています。機能に限りがありますが、端的に内容をお伝えできるよう工夫して参ります。なお、受信した際は開封確認をお願いします。開封を確認できない場合は、電話にて確認をしますので、注意してください。メールシステムのそのもの変更は、予算が必要になりますので、教育委員会と対応を協議してまいります。なお、ホームページにて、北海道教育委員会からのパンフレット等を掲載しておりますので、ぜひこちらもご覧ください。

学校で実施する健康診断は、子供たちの健康の保持増進を図るために法規に沿って実施されています。検査項目は身長や体重、視力、聴力などです。ワクチン接種は、現在個別に医療機関で受ける任意接種となっていますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

【その他】

(児童)

- ・楽しくみんなが笑顔になる学校にしたい。(6名)
- ・みんな優しく仲良く、幸せな学校にしたい。(4名)
- ・けんかやけがない安全な学校にしたい。(3名)
- ・いろいろな生き物を飼いたい。

学校が楽しいと思う基盤は「温かな人間関係」があり、心理的な安定が図られ、自己実現ができる環境です。そのためには、教職員の「笑顔を温かな言葉かけ」と「共に遊び・語り合い・ふれあう姿勢」を大切に、子供のよさを認め、励まし、伸ばしていきます。授業や休み時間、給食、清掃、委員会などあらゆる教育活動をとおして、子供の理解を深め、信頼関係を築いていきます。保護者の皆様のご理解とご協力を、改めてお願い申し上げます。

貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。少しでも子どもたちのためになるように、日々改善してまいります。

なお、学校においては以下の点に重点をおき、よりよい教育活動を推進してまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

【学校経営の重点】温かな人間関係と「わかる」「できる」で楽しい授業を

温かな人間関係

- 子供に寄り添い、どの児童にも居場所のある学級づくり
- 磨き合い、支え合い、認め合う学級づくり
- 対話を大切にした学級づくり
- 道徳を中心とした心の教育の推進
- それぞれのよさを認め、励ます指導の重視
- 一人ひとりに応じた支援の充実

「わかる」「できる」＝楽しい授業

- 自分の考えを表出する機会の設定、自己決定する場の設定
- ねらいに迫る学びの工夫
- 「子供が学ぶ」授業への転換
- ICTの活用、学習ルールの徹底
- ふるさと教育（くねっぴ学）の推進
- 汗をかく体育の授業、運動の日常化、徒歩通学の奨励